

国際セミナー「変貌しつつある ASEAN の大都市交通」

運輸総合研究所 宿利会長 挨拶

2019年7月19日（金）

皆さんこんにちは。運輸総合研究所会長の宿利正史です。本日は、当研究所主催の「国際セミナー『変貌しつつある ASEAN の大都市交通』」に、多数の皆様にご出席いただき、誠にありがとうございます。また、国土交通省の藤田事務次官におかれましては、公務ご多忙の中ご出席いただき、感謝申し上げます。

本日のセミナーは、一昨日、広島で開催されました日 ASEAN 次官級交通政策会合にご出席された ASEAN 各国の方々の中から、本年の次官級会合の議長であるベトナム交通運輸省のレ・トゥアン・アイン国際協力局長、インドネシア運輸省のジョコ・サソノ・ソエマルノ次官、フィリピン国鉄のジュン・ビー・マグノ総裁の3名の方々をお招きしてご講演を頂くとともに、引き続き、この御三方にパネリストとして参加頂き、政策研究大学院大学の森地先生、国土交通省の水嶋鉄道局長、そしてモデレータとして当研究所の山内所長を交えて、パネルディスカッションを行って頂くものです。

日 ASEAN 次官級交通政策会合では、都市公共交通政策などの日 ASEAN 交通連携の活動状況が報告されるとともに、過積載車両管理のための ICT を活用した実証実験等の新たなプロジェクトが承認されるなど、交通の幅広い分野で引き続き連携を深めていくことが確認されたと承知しています。

さて、ASEAN の大都市では、急激な経済成長を遂げる一方で、人口の過密・急増により交通渋滞や環境汚染などの深刻な課題を抱えており、生活環境の改善など都市の健全な発展が阻害されている実情にあります。

そのような中、ベトナムではハノイのメトロ 2A 号線と 3 号線、ホーチミンでは 1 号線の整備が進められています。インドネシアのジャカルタ市では、MRT の南北線と東西線の整備事業が展開され、南北線については、今年 3 月に日本の ODA により開通した Phase 1 に引き続き北部延伸事業が進められています。フィリピンのマニラ市では、南北通勤鉄道の整備事業、メガマニラ圏地下鉄事業の 2 つの事業が本年 2 月から着工されるな

ど、急ピッチで整備が進んでいます。

また、今回お招きしておりませんが、先週私が国際高速鉄道協会の活動で訪問したシンガポールでは、本年5月に新たな陸上交通基本計画を策定し、2030年までに、MRTの路線延長を現在の180kmからその倍の360kmに拡張する予定であると陸上交通庁の幹部から聞きました。

さらに、タイのバンコク市では、MRTのブルーライン、パープルラインに引き続き、レッドラインやオレンジラインの建設や都市鉄道網の拡充が進み、マレーシアのクアラルンプール市やミャンマーのヤンゴン市でも、それぞれ新たな都市鉄道路線の整備や、環状鉄道の改修事業が進展するなど、ASEANの大都市における都市交通は、鉄道を中心として、今大きく変貌しようとしているところです。

本日のセミナーでは、このような状況を踏まえ、ASEANの大都市における都市交通、とりわけ都市鉄道を中心とした交通政策の現状と将来の展望、加えて、今後の各国と日本との連携のあり方について、講演とパネルディスカッションを通じて、最新の情報と課題の共有を図り、共に考察を深める機会にしたいと考えております。

なお、当研究所としては、ASEAN各国との交通運輸・観光分野の交流や連携の促進を図るため、来年には、ASEANの一都市に研究調査活動の拠点を設置する予定であり、本日のセミナーもこのような取組みの一環として開催したものであります。

最後に、本日のセミナーの開催については、日本財団の特別の支援を受けて実施することを申し添え、また、このセミナーがご出席いただいた皆様方にとりまして有益なものとなりますことを期待し、私の冒頭の挨拶といたします。

本日は、ご参加いただき、誠にありがとうございます。

(以上)